

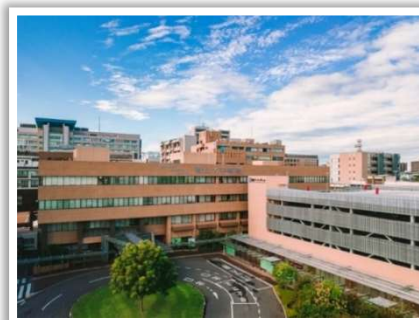
岡山大学病院 放射線部

Division of Radiological Technology, Okayama University Hospital

岡山大学病院の理念

『高度な医療を優しく提供し、優れた医療人を育て、
社会・地域の持続的な健康増進に貢献します』

病床数 855 床、45 の診療科を有する当院は、理念に基づいた診療・研究・教育活動を行っており、中四国地方唯一の臨床研究中核病院およびがんゲノム医療中核拠点病院でもあります。また、「特定機能病院」として最先端の医療を提供するとともに「教育病院」として未来の医療を支える優れた人材を育成する場所でもあります。



我々放射線部門が所属する医療技術部は、当部門以外に検査部門・臨床工学部門・総合リハビリテーション部門・臨床栄養部門・臨床心理部門・歯科部門で構成され、「国家資格を有する専門医療技術者として、医療技術の質の向上を図り、臨床診断や治療部門との密接な協力体制を確立する。」という理念のもと、職種を超えた協力体制を図り、検査、処置、治療等をサポートしています。

放射線部について

放射線部は 6 部門から構成され、診療放射線技師 56 名（男性 43 名、女性 13 名、2022 年 9 月現在）が在籍し、診療放射線技師長を中心に副診療放射線技師長 4 名、主任診療放射線技師 8 名で組織の体制や人事管理を行い、診療に従事しています。月 1 回全員が集まるカンファレンス、週 1 回各部門のミーティング、ローテーションや人員配置を決める放射線技師運営会議、現状や今後の方針を検討する技師長・副技師長会議、各部門の代表者による主任会議等を行い、各会議が連携して放射線部を運営しています。また、部内に各種委員会を設け、全員が必ずどれかに所属して活動することで、全員で放射線部を担っているという意識が備わっていることが大きな特徴です。

《一般撮影部門》

一般撮影のほか乳房撮影、骨密度、CBCT、歯科撮影に対応しており、すべての検査がデジタル化しています。特に整形部門では、長尺 FPD を使用した全脊椎の立位・臥位撮影、全下肢の撮影が可能となりました。そのため患者様の身体的負担の軽減と待ち時間の短縮が可能となり、患者サービスの向上が図られました。また、全操作室が融合された設計にな

っているため、教育面に関してもサポートを受けやすい環境になっています。2021年4月からは本学津島キャンパスの保健管理センターの健康診断業務が新たに開始されています。

《IVR・手術室・病室撮影部門》

IVR診療の一大拠点として、IVRセンター内にはがん・総合部門、脳神経部門、循環器部門、小児循環器部門、麻酔部門の5つの診療部門があり、国内でも有数の年間約4000件を超える検査、治療を施行しています。脳血管・全身用バイプレーン1台、心臓用バイプレーン4台、IVR-CT2台、Open MRIが設置されており、低侵襲治療のさらなる発展を目指しています。また、医療スタッフの被ばくを考慮し、装置の管理や線量測定、防護や画像最適化などについて日々検討しています。当院での最先端の治療を安心して受けて頂くことが出来るよう、専門的な知識と技術を持って診療をサポートしています。



手術室ではHybrid ORやO-armを含む7台の透視装置を有し、各診療科と連携して高度な医療の提供に努めています。また心臓血管外科、循環器内科を中心とするハートチームの一員として、TAVIなどの難易度の高い治療をサポートし、ハイレベルなチーム医療を実践しています。手術室での業務と並行して病室撮影に加え救急患者の撮影検査にも対応しています。3次救急としての対応に加え、最近ではCOVID-19対策として徹底したゾーニングや感染予防策を行い、安心・安全な医療の提供に力を入れています。

《CT部門》

1日約140件の検査を4台の装置で行っています。また、高度救命救急センターにも救急専用機として1台配置しています。検査内容に応じ、各装置の特徴を生かせるよう使い分けに配慮し、放射線科医や各診療科医師と連携を密に行いながら、最適な検査を施行しています。また、当院では年間1万件超の手術実績があり、3D画像や手術支援画像の作成においても各診療科からの要望を積極的に活かす努力も行っています。



《MRI部門》

1日約60件の検査を4台（1.5T：1台、3.0T：3台）で行っています。各診療科との活発な情報交換のもと、幅広い臨床知識を習得するとともに、疾患や病態に応じた撮像プロトコル作りにも技師が積極的に参加しています。また、医療安全の観点においては、MRI安全運用部会を設置し医療安全管理部と積極的に連携するとともに、技師・看護師・クラークの3職種が一つのチームとして安全な検査の提供に努めています。

《放射線治療部門》

医師・看護師・クラークと連携を図りながら、安心して安全な治療が行える環境を整えてい

ます。直線加速器 2 台による外部照射，RALS 装置を用いた腔内照射，密封小線源を用いた組織内照射を行っています。2023 年度以降に 2 台の加速器の更新を行う予定で、新しい放射線治療システムの導入により最先端の放射線治療の提供を目指します。

《核医学部門》

SPECT/CT 装置 2 台，SPECT 装置 1 台の合計 3 台で検査を行っています。装置は，GE 社製，SIEMENS 社製，Canon 社製とすべてメーカーが異なります。そのため，撮像装置や画像処理装置の操作性などを直接比較することができます。また，被ばく管理は，医療放射線情報一元管理システム（Radimetrics）を使用しており，実投与量と実効線量で評価を行っています。

⑥ 新人教育と人材育成

「専門的な医療技術」はもちろん，良好な人間関係構築のために必要な高いコミュニケーション能力と人間性豊かな医療人の育成に取り組んでいます。

新人技師については，再構築した新人教育プログラムを 2021 年度より始動し，対話を重視した教育を実施しています。その中で，部署ごとに設定した段階的達成目標への自身の達成度と主任による他者評価に基づく指導を行い，効率的な技術力強化を図っています。また，プログラムには，医療人としての資質向上を目指す内容も含まれています。さらに，部署の異動ごとに担当部署主任による他者評価・フィードバックを共有し継続した人材育成を行います。

1 年目は，日直や夜勤に必要なスキルである一般撮影・病室撮影・CT 検査に対応できるよう，3 か月ごとのローテーションで技術の習得を目指します。

2 年目以降は，岡山大学病院の診療放射線技師として，医療安全を基に「技術・知識の向上」を目指し，固定概念にとらわれない幅広い視野を持つことを目指したローテーションを行います。個人ごとに面談し，経験年数に応じた段階的な目標設定（ステップアップ），役割の認識および動機付けを明確化し，ジェネラリストとして，基本の幅広い臨床知識の習得を目指します。

その後，段階的にスペシャリストとして，自己目標管理能力を養い，専門認定など資格取得の推進（支援）や博士号の取得など学術活動のできる人材や次世代のリーダーとなる人材育成を目指しています。大学院進学によるキャリアアップを目指す技師も多く，2022 年 7 月現在で前期課程卒 13 名，後期課程卒 5 名，在学中が 3 名います。

⑥ 新規入職希望者の方へ

地域医療における大学病院としての役割を果たすため，我々放射線部においても高度な医療の継続的な提供が求められます。また，昨今の情勢から，様々な場面における変化への対応も求められています。未来の放射線部を我々と共に創っていきましょう。